

2024年3月期 決算発表(参考資料)

1. 業績の推移

(単位:百万円、%)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	
	実績	実績	実績	実績	対前期 増減率(%)
連結子会社	19社	18社	19社	20社	
営業収益	47,782	48,254	48,065	49,687	3.4
営業利益	1,503	1,314	831	758	△ 8.8
経常利益	1,629	1,431	1,038	886	△ 14.7
親会社株主に帰属 する当期純利益	971	966	1,446	835	△ 42.2

営業収益は2期ぶりの増収で過去最高額
営業利益、経常利益は共に3期連続の減益

【過去最高実績】 (単位:百万円)

営業収益	2024年3月期	49,687
営業利益	2019年3月期	1,687
経常利益	2019年3月期	1,756
親会社株主に帰属 する当期純利益	2020年3月期	3,118

2. 次期の業績予想

2024年5月15日付プレスリリース「MBOの実施及び応募の推奨に関するお知らせ」において公表いたしましたとおり、トモエ株式会社(以下「公開買付者」といいます。)による当社の発行済普通株式(以下「当社株式」といいます。)に対する公開買付け(以下「本公開買付け」といいます。)およびその後の一連の手続を実施することにより当社株式が上場廃止となる予定であることから2025年3月期の業績予想は記載しておりません。

3. 経営成績等の概況

【2024年3月期の業績概要】

①トラックによる企業間輸送を主とする「輸送サービス部門」は「減収」

- ・貨物輸送量は、生活関連商品の値上げが続いていることによる購買意欲の低下や、ネット通販等のEC物流が増加したことにより、企業間物流の貨物輸送量は年間を通して前年割れの状況が続いた。
- ・特種み貨物以外の輸送領域として、港湾地区での輸入貨物を取り扱う㈱エスラインギフ「阪神港湾センター」や「京浜港湾センター」地域貸切を取り扱う㈱エスラインギフ「中部貸切業務センター」や「九州貸切業務センター」での貸切業務拡大の取り組みにより貸切収入は増加した。
- ・協力会社と幹線便の共同輸送や富山県下において、共同集配業務を開始する等、輸配送業務の効率化と生産性の向上に取り組んだ。

②商品保管や物流加工を行う「物流サービス部門」は「増収」

- ・過年度に新設した自社保管施設による増床効果と、交通アクセスの利便性を活かした保管施設と輸送拠点により、食品関連の取引先からの商品保管および配送業務の取扱物量が増加した。

③大型商品等の個人宅配や引越しを行う「ホームサービス部門」は「増収」

- ・お客様満足度を高める取り組みを継続したことにより、新規の取引先の開拓や既存荷主の配送エリアを拡大した。
- ・一昨年9月には東北地区、昨年10月には関東地区をカバーする家電配送および設置工事業務を行う会社を完全子会社化したことで大幅な増収となった。

この結果、営業収益は、496億87百万円(前年同期比3.4%増)となり、2期ぶりの増収(過去最高額)となった。

利益面では、軽油価格の高値が続いていることや、労働力不足による備車費を中心とした外注費の増加、社員の待遇改善や、求人費・社員教育費等の人件費の増加、新施設の減価償却費や施設使用料等の経費が増加したことで、営業利益は7億58百万円(前年同期比8.8%減)、経常利益は8億86百万円(前年同期比14.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は8億35百万円(前年同期比42.2%減)となった。

以 上